
trick and treat

八月一日

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

trick and treat

【Nコード】

N61820

【作者名】

八月一日

【あらすじ】

とある休日のこと。

自室のPCでweb小説を読んでいたら妹がノックなしに入ってきて一言。

「お菓子ください」

t r i c k a n d t r e a t

「お姉ちゃん、お菓子ください」

「……何改まってんの？」

部屋でweb小説を読んでいたらノックもなしに入ってきた妹の千亜^{ちあ}。その千亜は、部屋に入ってくるやいなや、菓子を要求してきた。

「いや、だからお菓子」

「なんで？」

「ハロウィンだよ？ カボチャだよ？ 仮装してt r i c k a n d t r e a tだよ？」

「あー、今日ってハロウィンだっけ」

PC画面の隅にある日付と時刻をみれば、10月31日。ハロウィンとは、まあ、千亜が好きそうな行事。

「たかられてもなんもないわよ」

「……いたずらするよっ..」

「具体的には？」

「お姉ちゃんに付きまったり、べたべたしたり、お風呂突入したり」

「おお、それはかなり迷惑」

「というかそれはいたずら？　いつもやってるでしょ。」

「ということで、trick and treat」

「いや、だからなんもないって」

「買いにでも行かないと。というか菓子自体、ストックがでるほど買わないから常備してない。」

「ハロウィン」

「今度はしがみついて前後左右にゆすりでした。」

「ああつ、もう、わかったわよ」

「家に菓子は無い。ということとは必然的に買いに行くしなくなる。滅多なことがない限り休日には、外にでたくないのに。」

「椅子から離れて外着にきがえるべく、クローゼットに向かうと、千亜は一人楽しそうに部屋から出て行った。まあ、ついてくるつもりで着替えに行ったんだらうけど。」

「厚手のジーンズに、セーター、ジャケット、とにかく防寒しか意識してない格好。」

「お姉ちゃん……温かそうだね」

「この寒い中出歩くんだから上等でしょ」

なんか不満がありそうな千亜を連れて家を出る。ここから近くのデパートまで歩くのが、面倒。やっぱ休日は外に出ないに限る。

「もう、お姉ちゃん歩くの遅い」

「財布渡すから一人で買ってきてくれれば？」

「それじゃ意味がないのー」

ハロウィンなんて面倒な行事、誰が考案したのよ。人さまに菓子たかるような劣悪な行事を。

「お姉ちゃん早くー」

「急いだって無駄に疲れるでしょうが」

*** ??? *

デパートにつくやいなや、千亜は食品売り場の菓子コーナーに突っ走って行った。あれで今年16なのが不思議。というか精神年齢の問題か。きつと6歳だと思う。

ゆっくり歩いて千亜のもとの行けば、カゴの中になにやら『大量』に菓子を詰め込んでいるのを発見。ざっと見ただけでも1000円分弱ある。

「千亜、買いすぎって言葉知らない？」

「だってハロウィンだよ？」

何気なしに周りを見てみたら、ハロウィンフェアと書かれた広告。菓子詰めセットやなんやらと、集客を狙った店の陰謀が見え隠れしてる。

「で、まだ買う気」

「うん」

すでにカゴの容積を軽く超えかけてる。ねえ、限度って単語知ってる？ さっき聞いたっけ。でもねえ、1000円超えてるでしょ、これ。ハロウィンにこんな出費するとは思わなかったんだけど。

「このくらいかな」

千亜の持ったカゴは隅から隅まで菓子が詰めてあった。財布の体重を抉りとりつもりだろうか。

「レジ〜」

「……」

会計の時に出ていく金額がえらく気になった。

「1452円です」

千亜、買いすぎ。

「〜」

一人上機嫌な千亜は、菓子の入った袋を手に鼻歌を歌いながら帰路を歩いている。かという私は、買おうと思つてのけてた金銭が飛んで、小説が買えなくなっている。ハロウィンなんてなくなつてしまえ。

「あとで一緒に食べようねー」

来年は何かしら常備しておこうという、教訓を思い知らされた。

「ん〜あまーい」

テーブルの上には買ってきた菓子。千亜はそのうちの一つのチョコ菓子を食べてる。私は、ホワイトチョコ。

「あま

(後書き)

ハロウィンです。

それは人様の家を訪ねて菓子を強要する行事(嘘)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6182o/>

trick and treat

2010年10月31日18時21分発行